

第4節 理 科

第1 本資料の活用について

1 作成の基本的な考え方

- (1) 小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（理科編）及び埼玉県小学校教育課程編成要領を踏まえ、学習指導・評価計画を作成する際の参考となるよう、理科における指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
- (2) 教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことをねらい、「学校教育目標の実現をねらった教育課程の編成、適切な実施・評価、必要に応じた改善」の一連のサイクル（カリキュラム・マネジメント）を具体的に示している。

2 取り上げた内容

第1 本資料の活用について

第2 理科における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 「理科の見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて
- 3 理科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について
- 4 観点別学習状況の評価の観点について

第3 指導と評価の計画及び授業改善

事例1 「電気の通り道」【第3学年】	事例2 「空気と水の性質」【第4学年】
事例3 「流れる水の働きと土地の変化」【第5学年】	事例4 「植物の養分と水の通り道」【第6学年】
事例5 「電気の利用」【第6学年】※プログラミング教育の例	

- 1 本単元の指導計画と評価計画の作成及び授業改善
- 2 本時の学習指導・評価と授業改善
- 3 学習指導と評価の例
- 4 学習評価について

第4 理科における学習評価の評定への総括例

- 1 学習評価についての基本的な考え方
- 2 単元及び学期末、学年末における観点ごとの評価の総括例

3 本資料の活用にあたって配慮すること

- (1) 理科の特質を踏まえること
理科には、問題解決の過程を重視するという学習過程の特質があり、この理科の学習過程の特質を踏まえ、問題を科学的に解決しようとする学習活動の充実を図ることができるようにする。
- (2) 指導計画に即した学習評価を行うこと
各学校で作成した指導計画に即して評価規準や評価方法を位置付け、指導と評価の一体化を図ることができるようにする。特に、問題解決の過程の中に学習評価を位置付けるように配慮する。
- (3) 学校、家庭、地域の実態に合った指導計画を立てること
学校、家庭、地域の強みを生かした指導計画となるように、児童や学校及び地域の実態を多面的に把握し、理科の学習活動の実施に必要な人的・物的な体制を整え、積極的に活用していく。

4 学力・学習状況調査等の活用

全国学力・学習状況調査については問題を活用し、学習指導要領で示された児童に身に付けさせたい資質・能力を捉えながら授業改善に生かすようにする。本資料では「既習の内容や生活経験と関係付けて話し合う」、「実験結果を基に分析し、問題に正対したまとめを行う」事例を掲載している。

埼玉県学力・学習状況調査については結果を活用し、一人一人の学力の伸びや学習方略、非認知能力等の状況等を把握しながら指導の工夫改善を図るようにする。

指導計画作成の留意事項

編成要領（編P75）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1) 「特別な支援を必要とするなど課題のある児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 「問題解決の力の育成」の視点
- (7) 「体験的な学習活動の充実」の視点
- (8) 「コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用」の視点

第2 理科における学習指導と評価

1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

理科においては、自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
教科の目標	自然の事物・現象についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、問題解決の力を養う。	自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

2 「理科の見方・考え方」を働かせる指導のポイントについて

「見方・考え方」は資質・能力を育成する過程で児童が働かせる「物事を捉える視点や考え方」のことである。小学校理科における「見方・考え方」とは、身近な自然の事物・現象を、質的・量的な関係や時間的・空間的な関係などの科学的な視点で捉え、比較したり、関係付けたりするなど、問題解決の方法を用いて考えることである。理科の学習においては、児童がこの「理科の見方・考え方」を働かせながら、自然の事物・現象に関わることができるように授業を構想していくことが重要である。

なお、「見方・考え方」は、問題解決の活動を通して育成を目指す資質・能力としての「知識」や「思考力、判断力、表現力等」とは異なることに留意が必要である。

◆ 「理科の見方・考え方」の例

領域	「見方」 問題解決の過程において、自然の事物・現象をどのような視点で捉えるかということ	「考え方」 問題解決の過程において、どのような考え方で思考していくかということ
エネルギー	量的・関係的な視点	比較する 関係付ける 条件を制御する 多面的に考える
粒子	質的・実体的な視点	
生命	共通性・多様性の視点	
地球	時間的・空間的な視点	

※左記の視点は他の領域においても用いられる。また、「原因と結果」「部分と全体」「定性と定量」などの視点もある。

3 理科における「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善について

理科においては、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの問題解決の活動を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るようにすることが重要である。そのために、例えば次のような視点から、授業改善を図ることが考えられる。

(1) 「主体的な学び」

- ア 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行っているか
- イ 観察、実験の結果を基に考察を行い、より妥当な考えをつくりだしているか
- ウ 自らの学習活動を振り返って意味付けたり、得られた知識や技能を基に次の問題を発見したり、新たな視点で自然の事物・現象を捉えようとしたりしているか

(2) 「対話的な学び」

問題の設定や検証計画の立案、観察、実験の結果の処理、考察の場面などでは、あらかじめ個人で考え、その後、意見交換したり、根拠を基にして議論したりして、自分の考えをより妥当なものにする学習となっているか

(3) 「深い学び」

- ア 「理科の見方・考え方」を働かせながら問題解決の過程を通して学ぶことにより、理科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになっているか
- イ 様々な知識がつながって、より科学的な概念を形成することに向かっているか
- ウ 新たに獲得した資質・能力に基づいた「理科の見方・考え方」を、次の学習や日常生活などにおける問題発見・解決の場面で働かせているか

4 観点別学習状況の評価の観点について

理科においては、「内容のまとめりごとの評価規準」を設定し、指導計画に位置付けながら指導と評価の一体化を図る必要がある。なお、「学びに向かう力、人間性等」の評価については、「主体的に学習に取り組む態度」を観点とした評価とし、「感性、思いやりなど」を個人内評価とする。

(1) 評価の観点及びその趣旨について

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然の事物・現象についての性質や規則性などについて理解しているとともに、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱いながら観察、実験などを行い、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決している。	自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

(2) 学年別の評価の観点の趣旨について (下線太字：学年によって表現が異なる部分)

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第3学年	物の性質、風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質、電気の回路、身の回りの生物及び太陽と地面の様子について理解しているとともに、器具や機器などを <u>正しく扱いながら</u> 調べ、それらの過程や得られた結果を <u>分かりやすく記録</u> している。	物の性質、風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質、電気の回路、身の回りの生物及び太陽と地面の様子について、観察、実験などを行い、主に差異点や共通点を基に、 <u>問題を見だし</u> 、表現するなどして問題解決している。	物の性質、風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質、電気の回路、身の回りの生物及び太陽と地面の様子についての事物・現象に <u>進んで関わり、他者と関わりながら</u> 問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
第4学年	空気、水及び金属の性質、電流の働き、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わり、雨水の行方と地面の様子、気象現象及び月や星について理解しているとともに、器具や機器などを <u>正しく扱いながら</u> 調べ、それらの過程や得られた結果を <u>分かりやすく記録</u> している。	空気、水及び金属の性質、電流の働き、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わり、雨水の行方と地面の様子、気象現象及び月や星について、観察、実験などを行い、主に既習の内容や生活経験を基に、 <u>根拠のある予想や仮説を発想</u> し、表現するなどして問題解決している。	空気、水及び金属の性質、電流の働き、人の体のつくりと運動、動物の活動や植物の成長と環境との関わり、雨水の行方と地面の様子、気象現象及び月や星についての事物・現象に <u>進んで関わり、他者と関わりながら</u> 問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
第5学年	物の溶け方、振り子の運動、電流がつくる磁力、生命の連続性、流れる水の働き及び気象現象の規則性について理解しているとともに、観察、実験などの <u>目的に応じて</u> 、器具や機器などを <u>選択して、正しく扱いながら</u> 調べ、それらの過程や得られた結果を <u>適切に記録</u> している。	物の溶け方、振り子の運動、電流がつくる磁力、生命の連続性、流れる水の働き及び気象現象の規則性について、観察、実験などを行い、主に予想や仮説を基に、 <u>解決の方法を発想</u> し、表現するなどして問題解決している。	物の溶け方、振り子の運動、電流がつくる磁力、生命の連続性、流れる水の働き及び気象現象の規則性についての事物・現象に <u>進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら</u> 問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
第6学年	燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性、電気の性質や働き、生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わり、土地のつくりと変化及び月の形の見え方と太陽との位置関係について理解しているとともに、観察、実験などの <u>目的に応じて</u> 、器具や機器などを <u>選択して、正しく扱いながら</u> 調べ、それらの過程や得られた結果を <u>適切に記録</u> している。	燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性、電気の性質や働き、生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わり、土地のつくりと変化及び月の形の見え方と太陽との位置関係について、観察、実験などを行い、主にそれらの仕組みや性質、規則性、働き、関わり、変化及び関係について、 <u>より妥当な考えをつくりだし</u> 、表現するなどして問題解決している。	燃焼の仕組み、水溶液の性質、てこの規則性、電気の性質や働き、生物の体のつくりと働き、生物と環境との関わり、土地のつくりと変化及び月の形の見え方と太陽との位置関係について事物・現象に <u>進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら</u> 問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

(3) 内容のまとめりごとの評価規準の作成について

- ◆「内容のまとめり」… 学習指導要領に示す各教科等の「第2 各学年の目標及び内容 2 内容」の項目をそのまとめりごとに細分化したり整理したりしたもの。

【第3学年】 A (1) 物と重さ・・・ B (1) 身の回りの生物・・・ 等

◆評価の視点・方法

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
視点	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。	知識及び技能を活用して問題を解決する等(※1)のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。	① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面 ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面(※2)を評価する。
方法	ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図ることが考えられる。また、児童が文章による説明をしたり、内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設け、多様な方法を適切に取り入れていくことも考えられる。	ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れられたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる。	ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や、児童による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。その際、理科の特質に応じて、児童の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要がある。

- ※1 「知識及び技能を活用して問題を解決する」という過程については、大きく次の三つに分類される。
- ・物事の中から問題を見だし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
 - ・精査した情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、目的や場面、状況等に応じて互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
 - ・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程
- ⇒各教科等において求められる「思考力、判断力、表現力等」を育成していく上では、こうした学習過程の違いに留意することが重要である。
- ※2 行為のみ(挙手の回数など)を取り出してその形式的態度を評価することは適当ではなく、他の観点に関わる児童の学習状況と照らし合わせながら学習や指導の改善を図ることが重要である。

◆「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らし、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面を評価することが求められる。

評価の対象とする学習の調整に関する態度は必ずしも、その学習の調整が「適切に行われているか」を判断するものではなく、それが各教科等における知識及び技能の習得や、思考力、判断力、表現力等の育成に結び付いていない場合には、それらの資質・能力の育成に向けて児童生徒が適切に学習を調整することができるよう、その実態に応じて教師が学習の進め方を適切に指導するなどの対応が求められる。その際、前述したような学習に関する自己調整にかかわるスキルなど、心理学や教育学等における学問的知見を活用することも有効である。

(「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」平成31年1月21日
中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会)

内容のまとめりごとの評価規準の作成 〈例〉 第3学年 A(1) 物と重さ

物の性質について、形や体積に着目して、重さを比較しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 物は、形が変わっても重さは変わらないこと。

(イ) 物は、体積が同じでも重さは違うことがあること。

イ 物の形や体積と重さとの関係について追究する中で、差異点や共通点を基に、物の性質についての問題を見だし、表現すること。

←学習指導要領より

評価の観点及びその趣旨↓

資質・能力の文末を変えて作成
(主体的に学習に取り組む態度は、評価の観点の趣旨を用いて作成)

第3学年 観点の趣旨		
知・技	思・判・表	主体的に学習に取り組む態度
		<u>物の性質</u> 、風とゴムの力の働き、光と音の性質、磁石の性質、電気の回路、身の回りの生物及び太陽と地面の様子についての <u>事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</u>

内容のまとめりごとの評価規準 3年 A(1) 物と重さ		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>物は、形が変わっても重さは変わらないことを理解している。</u> ・ <u>物は、体積が同じでも重さは違うことがあることを理解している。</u> ・ 観察、実験などに関する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 物の形や体積と重さとの関係について追究する中で、差異点や共通点を基に、物の性質についての問題を見だし、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>物の性質についての事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。</u>

(4) 「単元の評価規準について」～指導と評価の実際～

理科においては、学習指導要領における「内容のまとめり」をそのまま「単元」と置き換えることが可能であるため、学習指導要領及び学習指導要領解説等における「内容のまとめり」の記載事項を踏まえて、「単元の目標」を設定し、「評価規準」を作成することができる。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識面について ・ 技能面について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察、実験前の思考・判断・表現について ・ 観察、実験後の思考・判断・表現について 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 粘り強い取組を行おうとする側面及び自らの学習を調整しようとする側面について ・ 理科を学ぶことの意義や有用性の認識という側面について

単元の評価規準の作成 〈例〉 第6学年 B(2) 植物の養分と水の通り道

植物について、その体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きに着目して、生命を維持する働きを多面的に調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができること。

(イ) 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されること。

イ 植物の体のつくりと働きについて追究する中で、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現すること。

学習指導要領より

第6学年B(2)「植物の養分と水の通り道」の単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されることを理解している。 植物について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 植物について、観察、実験などを行い、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし、表現するなどして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> 植物についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 植物について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

※単元の評価規準作成にあたっては、P88「各学年『単元の評価規準』の概要」を参照

【第6学年B(2)「植物の養分と水の通り道」】の評価規準を基に作成した実現状況の例

観点	実現状況	
	B規準を上回る例	おおむね満足できる状況(B規準)
知識・技能	知・技①	<ul style="list-style-type: none"> 植物の葉に日光が当たるとでんぷんができることを理解している。 根、茎及び葉には、水の通り道があり、根から吸い上げられた水は主に葉から蒸散により排出されることを理解している。 植物について、観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。
	知・技②	
	知・技③	
思考・判断・表現	思・判・表①	<ul style="list-style-type: none"> 植物について、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。 植物について、観察、実験などを行い、体のつくり、体内の水などの行方及び葉で養分をつくる働きについて、より妥当な考えをつくりだし表現するなどして問題解決している。
	思・判・表②	
主体的に学習に取り組む態度	態①	<ul style="list-style-type: none"> 植物についての事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 植物について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。
	態②	

※B規準を上回っていればA評価、B規準に至っていなければC評価となる。

※B規準を上回る例を示した。思考・判断・表現力では、第6学年で主に育成する「より妥当な考えをつくりだす力」の例である。以下は、その他の学年の例を示す。

問題を見いだす力 (3年) <ul style="list-style-type: none"> 状況に沿っている。 検証可能である。 検証する視点を科学的に明確にしている。 表記方法(～なのだろうか?) 	根拠ある予想や仮説を発想する力 (4年) <ul style="list-style-type: none"> 根拠が既存の知識である。 根拠が複数である。 他者の予想に反論できる。 表記の方法(～だから○○) 	解決の方法を発想する力 (5年) <ul style="list-style-type: none"> 自分の予想に正対している。 結果を科学的に見通している。 実験条件が妥当(条件制御)である。 複数の角度から検討している。
---	--	--

(5) 個人内評価の扱いについて

観点別学習状況の「感性、思いやりなど」は、理科においては「自然を愛する心情」に該当する。観点別学習状況の評価や評定には示しきれない児童一人一人のよい点や可能性、進歩については、「個人内評価」として実施される。「自然を愛する心情」の姿を見取る場合、評価結果は総合所見に記載したり、口頭で児童に告げたりする等、学ぶ原動力になるようにフィードバックすることが望ましい。

【参考】各学年「単元の評価規準」の概要

第3学年「単元の評価規準」の概要		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)について、<u>差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現する</u>などして問題解決している。 ・(A)について、<u>観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現する</u>などして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)についての<u>事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しよう</u>としている。 ・(A)について<u>学んだことを学習や生活に生かそう</u>としている。
第4学年「単元の評価規準」の概要		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>器具や機器などを正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)について、<u>既習の内容や生活経験を基に根拠ある予想や仮説を発想し、表現する</u>などして問題解決している。 ・(A)について、<u>観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現する</u>などして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)についての<u>事物・現象に進んで関わり、他者と関わりながら問題解決しよう</u>としている。 ・(A)について<u>学んだことを学習や生活に生かそう</u>としている。
第5学年「単元の評価規準」の概要		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)について、<u>予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現する</u>などして問題解決している。 ・(A)について、<u>観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現する</u>などして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)についての<u>事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しよう</u>としている。 ・(A)について<u>学んだことを学習や生活に生かそう</u>としている。
第6学年「単元の評価規準」の概要		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・(ア)を理解している。 ・(イ)を理解している。 ・(A)について、<u>観察、実験などの目的に応じて、器具や機器などを選択して、正しく扱いながら調べ、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)について、<u>予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現する</u>などして問題解決している。 ・(A)について、<u>観察、実験などを行い、(B)について、より妥当な考えをつくりだし、表現する</u>などして問題解決している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(A)についての<u>事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しよう</u>としている。 ・(A)について<u>学んだことを学習や生活に生かそう</u>としている。

※ (ア)、(イ) は、知識に関する内容、(A) は内容のまとまりにおける学習の対象を示している。

※ (B) はその場面で追究する学習内容を示している。

※下線部は、学年によって表現が異なる場合がある部分を示している。

⇒各学校において学習評価を行う際の評価規準は、「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。